

日本学術会議 フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第25期第8回）
議事要旨

日時：令和4年9月20日（火）18:00～20:00

会場：オンライン開催(Zoom)

出席：(分科会委員) 氷見山幸夫、丹羽淑博、日置光久、小林亮、福士謙介、窪川かおる、
山形俊男

(オブザーバー) 小玉敏也、鈴木克徳、石原靖久（以上 ESD/SDGs カリキュラム小委員会委員）、小山亮（事務局）

資料：

資料1：第7回分科会議事要旨

資料2：ESD/SDGs カリキュラム小委員会（第25期第8回）議事要旨

資料3：持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会委員名簿

資料4：ESD/SDGs カリキュラム小委員会委員名簿

資料5：海の学びカリキュラム小委員会委員名簿

資料6：6月5日学術フォーラムポスター

資料7：6月5日学術フォーラム事後報告

議題

・前回議事要旨を確認の後、審議に入った。

1) 分科会副委員長の選出

ESD/SDGs カリキュラム小委員会委員長ならびに分科会副委員長を務められた小金澤先生のご逝去を受けて、後任の副委員長に海の学びカリキュラム小委員会委員長の日置光久連携会員を選出した。

2) 学術フォーラムの成果と課題について

講演者等19名の他、現地・オンライン参加を含めて計141名が参加したことが確認された。

この成果は、持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会およびフューチャー・アース(FE)、カーボンニュートラル、IYBSSD、SDGsに関する委員会等の審議活動に反映される。『学術の動向』に特集企画を提案中。以下の意見あり。

・現場のニーズを拾う必要がある。

・教育こそSDGsの中核というメッセージを発することができた。

・変容や気づきを誘発するために何が必要か？ 教師自身の変容も必要。

・ユネスコスクールはESD推進の中核になっているが、それが浮いてしまわないようにす

るには、そのあり方の見直しも必要。

- ・ FE 自体の活動との連携が弱かったのではないか。最先端研究者との連携も。
- ・ 参加の人数も多く幅広く、新鮮な情報を届けることができたのではないか。
- ・ SDGs、ESD を進める研究者の立場に難しいものもあるのではないか。
- ・ good practice だけでなく問題点も扱った方が良いのでは。
- ・ 研究者の相克や社会の仕組みの難しさ、高等教育も視野に入れる。
- ・ 自然界の隠れたメッセージを読みとる必要性がある。

3) 小委員会報告

- ・ ESD/SDGs カリキュラム小委員会（第 25 期第 8 回）において、氷見山連携会員を後任の委員長とすることを決定した。
- ・ 海洋教育カリキュラム小委員会は様々なテーマで勉強会を開催した。

4) 今後の分科会の活動について

以下の意見あり。

- ・ 他の分科会の活動も視野に、さらに総合化や連携が必要。

5) 次回公開イベントについて

- ・ ひきつづき小委員会の活動をベースにして、公開シンポジウムを開催する。11 月 28 日幹事会提案（資料締め切り 11 月 7 日）で 1 月開催を目指す。提案書の取りまとめと提出は委員長に一任する。

6) 分科会に関する国際的・国内的動向

- ・ FE General Assembly が明日（9 月 21 日）から 3 日間開催。
- ・ 先週末、日本海洋教育学会設立大会。
- ・ ユネスコスクール 70 周年記念フォーラムを来年日本で開催したいとの意見あり。
- ・ IYBSSD2022 の活動が活発。FE との連携は双方にとって大変有益なので、今後強化することが必要がある。

7) その他

- ・ 特になし。